

## 経営体育成支援事業目標達成状況報告書(一般型)(4年度目)

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施年度	目標年度
北海道	幕別町	大正地区	平成24年度	平成26年度

### I 意欲ある多様な経営体の育成・確保に関する成果目標

(単位:経営体、人、人・日)

成果目標項目	目 標 (3年度目)	達成状況(上段:計画、下段:実績)				4年度目 達成状況 (%)
		1年度目	2年度目	目標年度	4年度目	
① 農業の6次産業化(経営体数)	2	0 1	0 1	2 1	2 1	50.0%
うち6次産業化法認定事業者						
経営面積の拡大(経営体数)						
② うち耕作放棄地の解消						
農業経営の法人化(経営体数)						
③ うち集落営農組織						
④ 新規作物の導入(経営体数)	3	0 1	0 1	3 2	3 2	66.7%
⑤ 農産物の品質向上(経営体数)	3	3 3	3 3	3	目標年度に 達成	目標年度に 達成
⑥ 生産コストの縮減(経営体数)	3	3 3	3 3	3 3	目標年度に 達成	目標年度に 達成
⑦ 集落営農組織の育成(経営体数)						
新規就農者の育成・確保(人)						
⑧ うち青年認定就農者						
⑨ 雇用者の確保(人・日)						
⑩ 家族経営協定の締結(経営体数)						
⑪ 環境への配慮(人・日)						

### II 対象経営体の経営改善目標

No	対象経営体名	経営改善目標	現 状 (計画時)	目 標 (3年度目)	達成状況(上段:計画、下段:実績)				4年度目 達成状況 (%)
					1年度目	2年度目	目標年度	4年度目	
1		【新規作物の導入】 小豆(a)	0	10	0 0	0 0	10 10	目標年度に 達成	目標年度に 達成
		【農産物品質の向上】 玉ねぎ製品歩留り(%)	82	85	85 85	85 87	85 93	目標年度に 達成	目標年度に 達成
		【生産コストの縮減】 防除作業時間(hr/10a)	0.5	0.25	0.25 0.25	0.25 0.25	0.25 0.25	目標年度に 達成	目標年度に 達成

2	【農業の6次産業化】 アスパラ契約栽培(a)	0社 0	1社 10	0社 0 0社 0	0社 0 0社 0	1社 10 0社 0	1社 10 1社 0	0.0%
	【新規作物の導入】 アスパラ(a)	0	10	0 0	0 0	10 0	10 0	0.0%
	【農産物品質の向上】 小麦製品率(%)	70	75	75 86.3	75 96.7	75 87.4	目標年度に 達成	目標年度に 達成
	【生産コストの縮減】 耕耘作業時間(hr/ha)	2.0	1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	目標年度に 達成	目標年度に 達成
3	【農業の6次産業化】 馬鈴薯契約栽培	1社 コンテナ12基	2社 コンテナ15基	1社 コンテナ12基 2社 コンテナ34基	1社 コンテナ12基 3社 コンテナ33基	2社 コンテナ15基 2社 コンテナ27基	目標年度に 達成	目標年度に 達成
	【新規作物】 牧草(a)	0	90	0 220	0 220	90 220	目標年度に 達成	目標年度に 達成
	【農産物品質の向上】 小麦製品率(%)	78	80	80 83.8	80 96.2	80 95.2	目標年度に 達成	目標年度に 達成
	【生産コストの縮減】 整地作業時間(hr/ha)	2.0	1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	1.5 1.5	目標年度に 達成	目標年度に 達成

### III 集落営農組織における農産物の共同販売経理状況

No	対象経営体名	共同販売経理 開始予定年月 (計画時)	実施状況(年月日)

### IV 達成状況に関する事業実施主体の所見(評価)

○農業の6次産業化の取組では、2経営体で目標を設定しており、1経営体は目標年度に目標を達成している。  
○新規作物の導入の取組では、3経営体で目標を設定しており、2経営体は目標年度に目標を達成している。  
両目標で未達成となった1経営体(同一経営体)においては、気象変動等もあって、栽培技術の習得等が十分できず、価格面でも交渉が難航し、契約成立まで至らなかったため、平成27年度も目標未達成となった。  
平成27年度から農協や農業改良普及センター等の指導を受けており、次年度以降は栽培技術の習得もでき、アスパラの導入が可能となる見込みだが、引き続き農協や農業改良普及センター等と連携を図りながら、目標未達成理由を分析し、その分析結果に基づいた技術指導を実施していくことで、栽培技術を確立させるとともに、ネット販売等新規に販路を見出すことで、契約成立を目指す。  
○農産物の品質向上の取組では、3経営体が目標を設定しており、全ての経営体で目標年度に目標を達成している。  
○生産コストの縮減の取組では、3経営体が目標を設定しており、全ての経営体で目標年度に目標を達成している。  
○本事業では人・農地プランへの位置付けが要件となっていないが、本地区の経営体は地域の話し合いによりモデルとなりうる中心経営体に位置付けている。本事業に取り組んだ経営体が主体となって、話し合いの活動の中で今後の地域農業のあり方を検討し、更なる地域農業の発展を目指していくとともに、町としても、町、農協、農業改良普及センター、農業共済組合や日甜などで構成する「ゆとりみらい21推進協議会」を活用し、各営農状況に応じた指導を行っていく。

〔記入要領〕

1 「現状」「目標」欄は、経営体育成支援計画書(以下「支援計画」という。)及び経営体調書の「現状」「目標年度」欄の内容を記入する。

I 及び II の「達成状況」欄の上段は、支援計画及び経営体調書にある計画を記入し、「○年度目の達成状況(%)」欄はその年度の計画に対する達成状況を記入する。

2 II の対象経営体の経営改善目標に関する達成状況は、支援計画の添付資料である経営体調書に掲げた経営改善目標の項目について、対象経営体毎に以下のとおり記入する。なお、記入欄は対象経営体数等に応じて適宜挿入すること。

(1) II の経営改善目標の達成状況の達成率は、(実績－現状) / (年度計画－現状) × 100により求めるものとする。

(小数第2位は切り捨て、小数第1位まで記入する。)

なお、(実績－現状) = 0、(年度計画－現状) = 0 となる場合の達成率の記入方法は、以下によるものとする。

①数値目標が漸増する場合

現状	年度計画	実績	(実績－現状) / (年度計画－現状) × 100	記入方法
0	0	0	$(0-0) / (0-0) \times 100 = 0/0 \times 100$	100%
0	0	$\alpha$	$(\alpha-0) / (0-0) \times 100 = \alpha/0 \times 100$	皆
$\alpha$	$\alpha$	$\alpha$	$(\alpha-\alpha) / (\alpha-\alpha) \times 100 = 0/0 \times 100$	100%
$\alpha$	$\alpha$	$\beta$	$(\beta-\alpha) / (\alpha-\alpha) \times 100 = (\beta-\alpha) / 0 \times 100$ $\alpha < \beta$	皆

(注)  $\alpha$  及び  $\beta$  は、0以外の数値をいう。

(2) 数値目標が漸減する場合

現状	年度計画	実績	(実績－現状) / (年度計画－現状) × 100	記入方法
0	0	0	$(0-0) / (0-0) \times 100 = 0/0 \times 100$	100%
$\alpha$	$\alpha$	$\alpha$	$(\alpha-\alpha) / (\alpha-\alpha) \times 100 = 0/0 \times 100$	100%
$\alpha$	$\alpha$	0	$(0-\alpha) / (\alpha-\alpha) \times 100 = -\alpha/0 \times 100$	皆
$\alpha$	$\alpha$	$\beta$	$(\beta-\alpha) / (\alpha-\alpha) \times 100 = (\beta-\alpha) / 0 \times 100$ $\alpha > \beta$	皆

(注)  $\alpha$  及び  $\beta$  は、0以外の数値をいう。

なお、集落営農補助事業に取り組む場合にあつては、経営改善目標欄に目標項目及び法人形態を記入すること。

3 III の集落営農組織における農産物の共同販売経理状況は、融資主体型補助事業及び集落営農補助事業に取り組んでいる集落営農組織における共同販売経理の状況を記入する。

4 IV の達成状況に対する事業実施主体の所見(評価)の欄は、事業実施年度から2年度目にあつては、成果目標の達成状況を勘案して達成見込がないと判断される場合は、達成に向けた具体的な取組内容を記入すること。

また、目標年度において目標を達成していない場合は、目標達成に向けた具体的な改善措置及び達成見込時期等を記入する。